

天敵 Wiki の 5 年間

○木浦卓治(農研機構)・菅原幸治(農研機構)・田中寛(大阪環農水総研)・関塚和己(神奈川県農業技術センター)

思うようにカルテを収集提供できなかつた天敵カルテの反省から、2004年12月に天敵 Wiki を開始して早くも5年間が過ぎようとしている。当時は農業関係 Wiki の先駆的な事例であり、先行きは不透明であった。関係者の協力により多くの情報が提供され、また天敵利用研究会ホームページの誘致などにより知名度を上げ、現在では日本語での天敵利用に関する情報の総本山として一定の評価を得ていると考えている。

天敵 Wiki のアクセス統計(<http://wiki.tenteki.org/index.php?アクセス統計>)によれば、開始時の2004年12月の利用は89の個別のIPアドレスから2339回アクセスされただけであったが、2005年12月に522IPから20981回、2006年12月に5535IPから153275回、2007年12月に6977IPから160128回、2008年12月に8290IPから183786回アクセスと利用が伸びている。ピークは2009年7月に16554IPから269370回のアクセスである。なお、一部の検索サイトのクローラによるアクセスが含まれているので、実質的には、最近では、数字ほどアクセス数は伸びていないと考えられる。

天敵 Wiki には誰でも書き込めるため、無関係な書き込みが行われる問題があったが、利用者と農業情報研究者との連携により、天敵 Wiki は正常に保たれてきた。利用者の要望に沿ったシステムの拡張(Tag クラウドの導入、試験的な掲示板システムの導入)や、システム管理者からの新たな機能(時間による表示内容変更機能、用語間の関係を定義する機能および用語間の関係の階層リスト表示機能、無意味な書き込みのフィルタリング機能、Web のリンク先が危険と判断した場合のフィルタ機能、リンク先フィルタを応用したリンク切れ発見機能など)の提供が行われており、利用者と運営サイドの協力関係は良好である。また、“Wiki”で検索して来ることも多くなってきている。小規模だが、まとまりの良いサイト運営ができていると感じている。

天敵 Wiki の目的の一つに、「天敵利用関係のテキストの解析研究に利用可能な言語資源の収集」があったが、収集できた用語は約450語(2009年10月16日現在)となっている。専門家による十分な修正が行われていないため、用語の説明にまちがった情報が含まれている、用語に偏りがあり体系的になっていない等の問題がある。後者に関しては天敵利用やIPMに積極的な方の関心がそこにあるという見方も可能であるが、検証が必要である。

以上のように、天敵 Wiki は成功したと認識しているが、アクセス数の頭打ちなど問題点もある。どんな情報を必要としているのかを明らかにして、その情報を提供できるような体制を作る必要があるだろう。また、ある程度の情報が集まってきたので、今後は情報の質を向上させる、情報の偏りをなくすなどする必要があるだろう。これは利用者の拡大に貢献するとともに言語資源としての価値を増すことになる。

このためには、より多くの情報提供者を確保する必要がある。より情報を提供しやすいシステムに改良するのはもちろんであるが、関連する専門学会とタイアップするなどの必要もあるだろう。しかしながら具体策はなく、天敵 Wiki の大きな課題となっており、何らかの解決を試みなければならない。